



今このドラマが熱い！ ～ドラマは時代を映す鏡

最近、法曹界を舞台とした韓国ドラマ‘ウ・ヨンウ弁護士は天才肌’が海外でも人気があると聞き、観てみました。あらすじを紹介すると、自閉スペクトラム症を抱えるヒロイン‘ウ・ヨンウ’がソウル大学法学部を首席で卒業し、大手法律事務所に新人弁護士として入所しながら、社会の様々な難問を解決するという内容です。偏見や差別に満ちた世の中で時に傷つきながらも、父親や友人、上司や同僚に助けられながら日々成長していくヒロインの姿は、昨今の閉塞感をほんの少し忘れさせてくれそうです。

企業間の熾烈な争いを描いた回では、販売差止請求がモチーフになりました。ATM(現金自動預払機)製造会社であるA社が、自社のATMカセット(紙幣収納部)保安装置を模倣した他製品を市場から排除したいと、ヒロインが務める法律事務所に依頼したことから物語は始まります。A社は自社開発したATMカセット保安技術を基に、2020年に実用新案出願をしたと主張しますが、ライバル会社であるB社は、「そもそもA社のATMカセット保安技術は、A社の実用新案の出願日より前である2019年に開かれた展示会で公開されていた技術であり、剽窃である」と反論します。ところが、A社は「A社の中で当該展示会に行った者はいない。2021年に製造されたB社製品こそ、A社製品の模倣品である」と新規性を主張します。これに対し、B社は、2019年に製造されたC社製品を根拠に、A社の実用新案をつぶそうと考えますが、C社は不具合により製品をすべて回収した後に倒産したため、市場に製品が残ってお

らず、疎明することができません。

ヒロインは、A社とB社のどちらの言い分が虚偽であるか、悩み始めます。事実関係を確かめようとするヒロインと、真偽よりも弁護士として依頼人を信じるのが礼儀だと考える同僚。ヒロインは嘘を見抜く身体的サインを見つけようとしますが、容易ではありません。直感を信じろという助言にも、「自閉症は人に騙されやすく、嘘がつけない」と、首を横に振ります。「自閉症の人は純粋だから？」との問いに、ヒロインはこう答えます。「人は自分と相手からなる世界で生きているが、自閉症は自分だけでなる世界で生きている。人は自分とは異なる考えを持ち、異なる意図をもって騙すこともあると頭では理解しても、すぐに忘れてしまう。騙されないために、常に意識して努力しなければならない」。現実社会での生きづらさを吐露するヒロインに、心をつかまれた気がしました。障がいの有無に関わらず、誰もが老いていくなかで、もう少し寛大な社会であって欲しいものです。

そして、ヒロインはA社の研究開発の責任者と対峙します。製品の開発過程について追及するも、責任者は明らかに動揺している様子。2019年の展示会に行ったかと聞いても、即答できません。疑いの目を向けるヒロイン…。その時、C社の製品がすべて破棄されたことを確認した同僚からの電話が。これでA社の実用新案出願がつぶされる心配はなくなりました。しかし、ヒロインはA社の主張を裏付けるため、開発責任者が参考人として公判で証言するよう勧めます。乗り気でない開



発責任者に、ヒロインはヒントを与えます。これは仮処分審理事件であるため、嘘をついても偽証罪にはならない、嘘をつくときに出る身体的サインに気をつけるようにと…。

ついに仮処分決定が下され、B社の製品は製造及び販売差止となり、B社は倒産の危機に見舞われます。B社の社長は、ヒロインに手紙で問います。「A社もB社も、展示会の技術を元に製品を作ってきた。A社は市場を独占する目的で、実用新案出願を行った。真実から目を背けるな。訴訟に勝つだけの弁護士になりたいのか、真実を明らかにする弁護士になりたいのか」と。不安を覚えたヒロインは、今度はB社の窮地を救おうとしますが、嘘がばれないように参考人に証言の仕方などを指示していたことを同僚に指摘され、ヒロインは言葉に詰まります。

その後、B社はC社製品を見つけ出し、裁判所がB社の主張を認めて販売差止の仮処分が取り消され、A社の実用新案出願の登録は難しくなりました。さぞかしA社は悔しがっているかと思いきや、仮処分の中に銀行との契約を済ませていたため、裁判の結果はさほ

ど重要ではない様子。法律の世界ではB社が勝利しましたが、ビジネスの世界ではA社が勝利を収めるという結末でした。

実用新案出願も、仮処分の申請も、A社が銀行との契約を独占するために行った嘘の行動であり、それに薄々気づきながらも勝ちたいがためにA社を助けた自分を責めるヒロインですが…。

ストーリーもさることながら、ヒロインの脇を固める登場人物も魅力的で、非常に良質のドラマだと思いました。皆さんもネットフリックスでチェックしてみたいはいかがでしょうか。

筆者紹介



柳鍾宇 (ユ ジョンウ)

GIP Korea代表弁理士。ソウル大学電気工学部を卒業。2009年弁理士登録。弁理士になる前は(株)LGディスプレイで設備購買及び技術営業の日本担当を務める。

前職の特許事務所では、最初は(株)サムスンの特許明細書作成/中間処理/外国出願などを行い、後に日本企業の韓国出願を担当。趣味はゴルフ。